

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
(グローバル展開プログラム)

研究 成 果 報 告 書

「絵ものがたりメディア文化遺産の
普遍的価値の国際共同研究による探求と発信」

研究代表者： 阿部 泰郎

(名古屋大学 高等研究院 客員教授)

研究 期 間： 平成 28 年度～令和元年度

1. 研究基本情報

課題名	課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
研究テーマ名	絵ものがたりメディア文化遺産の普遍的価値の国際共同研究による探求と発信
責任機関名	国立大学法人名古屋大学
研究代表者(氏名・所属・職)	阿部泰郎 高等研究院 客員教授
研究期間	平成28年度 ~ 令和元年度
委託費	平成28年度 6,341,400円
	平成29年度 7,406,100円
	平成30年度 4,711,200円
	令和元年度 4,914,000円

2. 研究の目的

日本が世界に誇る文化の所産としての絵巻や絵本は、国内のみならず海外にも多く所蔵される。本研究の目的は、第一に、絵伝など説話画を含め、絵を物語る絵解きによりその世界を伝達伝承する行為までを「絵ものがたり」メディア文化遺産として総合的にとらえ、可能な限り悉皆的に調査することを目指す。その過程においては、海外所蔵機関のキュレーターと海外研究者との協働で探査を行い、同時に研究を進める中で、最新の学術成果を常に共有しつつ、社会にも随時発信していく。

第二に、そのイメージの達成と背景となる歴史文化の文脈を探求することで、その普遍的な価値と意義を解明することにある。そのための調査の過程を全て共有することにより、将来的に「絵ものがたり」の文化遺産を介した国際学術共同体を構築するための布石となることを意図し、同時にその過程が日本と欧米その他の次世代を担う若手研究者の育成につながることを期した。

3. 研究の概要

この趣旨に基づく具体的な研究内容として、特に以下の3点を実施した。①文学と美術史をはじめ人文諸学を結集し、米・仏・独の美術文学研究者と所蔵機関（チェスター・ビーティー・ライブラリー、ハーバード美術館、フリーア美術館等）学芸員との国際共同研究により、探査した作品の資料や研究成果を共有しつつ、最新の成果を共同で国際発信した。②この過程で、仏パリ・ストラスブール、独ハイデルベルク等の市民学生に日本の図像メディアと文字のリテラシーを普及向上させ、研究教育に携わる若手研究者の飛躍の機会とした。③社会的には、絵解きなど民衆伝承文化の保存と創造的継承の試みを通じた国際的な文化発信を、仏パリ・ストラスブール、米ハーバード大学、エストニア・タリン大学等にて国際ワークショップやセミナー、フォーラムなど多彩なプログラムによって実施した。

4. 研究プロジェクトの体制

研究代表者・グループリーダー・分担者の別	氏名	所属機関・部局・職（専門分野）	役割分担
研究代表者	阿部泰郎	名古屋大学・高等研究院・客員教授（宗教テキスト学・中世文学）	プロジェクト統括および絵本・絵巻研究グループ・絵解き文化継承グループリーダー
グループリーダー	小林健二	国文学研究資料館・名誉教授（中世文学・芸能史・能楽）	学芸知と絵ものがたり研究グループリーダー
研究分担者	齋藤真麻理	国文学研究資料館・教授（中世文学・室町文芸）	聖俗の学芸ネットワークと絵巻・絵本の関連研究
研究分担者	海野圭介	国文学研究資料館・教授（中世文学・和歌注釈）	中世学芸知の知的体系と海外調査研究
研究分担者	恋田知子	国文学研究資料館・准教授（中世文学・宗教文芸）	海外・国内文芸・宗教絵巻等の調査研究
グループリーダー	石川透	慶應義塾大学・文学研究科・教授（中世文学・書誌学・奈良絵本）	国際「絵ものがたり」探査研究グループリーダー
研究分担者	佐々木孝浩	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・教授（中世文学・書誌学・和歌文芸）	写本・版本の書誌学全般
研究分担者	高橋悠介	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・准教授（中世文学・宗教芸能）	宗教芸能資料と図像の研究
グループリーダー	高岸輝	東京大学・人文社会系研究科・准教授（日本美術史・室町絵画）	絵巻・説話画研究グループリーダー
研究分担者	山本聡美	早稲田大学・文学学術院・教授（日本美術史）	中世宗教説話画・絵巻研究
研究分担者	加須屋誠	京都市立芸術大学・芸術資源研究センター・客員研究員（日本美術史）	中世宗教説話画研究
研究分担者	鷹巢純	愛知教育大学・教育学部・教授（日本美術史）	中世宗教説話画研究
研究分担者	阿部美香	名古屋大学・人文学研究科・共同	中世宗教文芸・縁起研

グループリーダー	阿部泰郎	研究員（中世宗教文芸） 名古屋大学・高等研究院・客員教授	究 「絵ものがたり」絵巻・ 絵本研究グループリー ダー
連携研究者	末松美咲	名古屋大学・人文学研究科・博士 研究員（日本文学）	絵巻・絵本研究
連携研究者	江口啓子	豊田工業高等専門学校・講師（日 本文学）	絵巻・絵本研究
連携研究者	鹿谷祐子	国立木浦大学校日語日文学科・招 聘教員（日本文学）	中世王朝物語研究
連携研究者	服部有香	愛知教育大学・非常勤講師（日本 文学）	和歌・物語研究
グループリーダー	伊藤信博	椋山女学園大学・国際コミュニケ ーション学部・教授（日本文化史・ 博物学）	国際博物学画像探査グ ループリーダー
研究分担者	高橋亨	名古屋大学・名誉教授（日本文学）	源氏絵・物語研究
研究分担者	龍澤彩	金城学院大学・文学部・教授（日本 美術史）	世俗絵画・絵巻絵本研 究
連携研究者	畑有紀	名古屋大学・人文学研究科・研究 員（日本文化史）	錦絵・物語研究
連携研究者	松山由布子	名古屋大学・人文学研究科・共同 研究員（日本文化史）	説話文学・アーカイヴ ス学
グループリーダー	阿部泰郎	名古屋大学・高等研究院・客員教 授	絵解き文化継承グル ープリーダー
研究分担者	原口志津子	奈良大学・文学部・教授（日本美術 史）	法華経絵研究
研究分担者	村松加奈子	龍谷ミュージアム・学芸員（日本 美術史）	中世絵伝・絵解き文化 研究
研究分担者	土屋貴裕	東京国立博物館・学芸企画部企画	中世説話絵巻・聖徳太

		課特別展室・主任研究員（日本美術史）	子絵伝研究
--	--	--------------------	-------

5. 研究成果及びそれがもたらす波及効果

本事業により、海外所蔵の絵巻絵本について、チェスター・ビーティー・ライブラリーの「舞の本」絵巻をはじめとする物語絵の調査研究が大きく進展し、この成果を受けて、国内所在の作品を網羅した海の見える杜美術館の展覧会が開催され、図録も刊行されて、海外所在の関連作品への関心が更に高まった。更に、フリーア美術館の国際共同研究ワークショップが実現し、主要な所蔵絵巻について共著で英文論集図録が出版されることになった。刊行された暁には、日本の研究水準を世界に示す成果発信となる。スイスでは、欧州所在の物語絵を集めた展覧会が企画され、実現すれば本事業に大きく貢献できる。基盤的研究では、『看聞日記』美術記事翻訳の国際共同研究も大きく進展し、翻訳原稿はすべて完成している。作品研究では、『見今参り』絵巻の国際連携による成果として一般向け解説書を公刊した。聖徳太子絵伝、融通念仏縁起絵巻等のデジタル画像化とその複製製作は20点を超え、国際（中・仏・米）絵解きワークショップと国内の絵解きフォーラムを計8回開催し、画像データによる高度デジタルコンテンツと絵伝研究の成果を披露すると共に、伝承者による絵解き公演などを通して、文化創造の源泉としての「絵ものがたり」の力を社会に再認識せしめた。発表論文は44本、刊行された編図書、図録は25点を数え、学界報告、講演は95本と、高度な水準の学術成果と国際社会および学界への発信を達成している。

6. 今後の展開

本事業が遂行した「絵ものがたり」作品の国際調査研究とその動態的機能の社会实践による復元は、まさしくその「メディア文化遺産」としての価値と意義に新たな照明を当てるものとなった。その中心となった日本側の各グループが互いに協力しつつ、海外研究者と連携して、海外所蔵機関の担当学芸員と信頼関係を構築し、共同で調査研究の過程と成果情報をすべて共有し、たとえばフリーア美術館において実現しつつあるように、共著・共編の英文解説論文図録の刊行による理想的な形での達成が期待されるに至った。今後、これが順調に完成公刊に至れば、本事業が目標とする国際共同研究の成果は更に人文学術界を広く裨益し、国際発信のモデルとして大きな影響力を及ぼすことが予想される。

また、本共同研究を契機として、仏、独の共同研究者が、スイス・チューリヒ美術館の学芸員と、欧米所在の日本物語絵の総合展覧会を企画し、これに代表者本研究グループが協力を求められるように、絵ものがたりを通じた新たな日本文化と研究交流の更なる進展が望まれている。

【研究成果の発表状況等】

(1) 論文(計 44件) うち査読付論文計 26件、うちオープンアクセス 計 8件

- ① 「黄表紙に擬人化される酒」、畑有紀、『酔いの文化史(仮)』アジア遊学、頁数未定、2019年刊行予定(掲載決定) 査読無
- ② 「判官物研究の展望」、小林健二、『説話文学研究』第54号、1-11頁、2019年9月30日、査読有
- ③ 「『見今参り』物語の再創造と室町期女房の文芸活動」、末松美咲、『説話文学研究』第54号、169-183頁、2019年9月30日、査読有
- ④ “Liminality Reimagined: Tales of Trespassers into Sacred Space and Tainted Sages”、阿部泰郎、Studies in Japanese Literature and Culture National Institute of Japanese Literature、1-28頁、2019年3月22日、査読有
- ⑤ “Illness as Depicted in the *Illustrated Legends of Kokawa Temple*”、山本聡美、Studies in Japanese Literature and Culture National Institute of Japanese Literature、29-44頁、2019年3月22日、査読有
- ⑥ “Borders Bibliography”、恋田知子、Studies in Japanese Literature and Culture National Institute of Japanese Literature、87-94頁、2019年3月22日、査読有
- ⑦ 「大織冠の物語絵」、恋田知子、『幸若舞曲と絵画(海の見える杜美術館特別展図録)』、97-102頁、2019年3月2日、査読無
- ⑧ “Le Dôjôï: Les métamorphoses de récits édifiants et d’arts de lascène-Les adaptations d’un récit illustré dans le théâtre nô”、阿部泰郎、CORPS ET MESSAGE, Editions Picquier、119-131頁、2019年2月、査読有

- ⑨「『奈良絵本集四』解題」、石川透、齋藤真麻理、金光桂子、『新天理図書館善本叢書』29、1-14頁、2019年6月24日、査読無
- ⑩「『奈良絵本集二』解題」、石川透、恋田知子、金光桂子、『新天理図書館善本叢書』27、1-19頁、2019年2月24日、査読無
- ⑪「広島県三原市立中央図書館蔵『桃売り』絵巻(仮題)解題と翻刻」、江口啓子、鹿谷祐子、末松美咲、服部友香、『名古屋大学人文科学研究』47号、1-22頁、2019年3月、査読無
- ⑫「画中詞の創作と物語の改作—横山本系『住吉物語』絵巻を中心に」、江口啓子、『名古屋大学国語国文学』111号、21-35頁、2018年11月10日、査読有
- ⑬「大念佛寺所蔵『融通念仏縁起』(歴応摸本)一解題および景印と翻刻」、阿部美香、『学苑』937号、219-267頁、2018年11月1日、査読有
- ⑭「荒神信仰と曼荼羅」、高橋 悠介、『悠久』155号、64 - 76 頁、2018年11月30日、査読無
- ⑮「『児今参り』試論—(児物語)との関係を中心に」、服部友香、『古代文学研究 第二次』27号、25-37頁、2018年10月19日、査読無
- ⑯「扇と物語絵に関する一考察」、龍澤彩、『金城学院大学論集(人文科学編)』第15巻第1号、145-156頁、2018年9月30日、査読有
- ⑰「物語と歴史の境界あるいは侵犯」、高橋亨、辻和良編、『栄花物語 歴史からの奪還』、森話社、5-20頁、2018年10月18日、査読無
- ⑱「宝蔵絵の再生 - 伏見宮貞成親王による「放屁合戦絵巻」転写と画中詞染筆」、山本聡美、『説話文学研究』第53号、115-122頁、2018年8月30日、査読有
- ⑲「画中詞研究への視座—絵と言葉のナラトジー」報告」、山本聡美、『説話文学研究』第53号、101-103頁、2018年8月30日、査読有
- ⑳「神仏の義礼と宗教空間を担うテキストの諸位相」、阿部泰郎、『説話文学研究』第53号、1-5頁、2018年8月30日、査読有
- ㉑「画中詞の創作～『住吉物語』絵巻と『児今参り』絵巻」、江口啓子、『説話文学研究』53号、123-132頁、2018年8月30日、査読有
- ㉒「平安時代物語作品の形態について—鎌倉・南北朝期の写本・古筆切を中心として」、佐々木孝浩、『斯道文庫論集』52号、1-33頁、2018年2月28日、査読有
- ㉓「東アジア・日本の仏教世界における地獄観」、加須屋誠、西山克編、『地獄への招待』、臨川書店、137～167頁、2018年4月13日、査読無
- ㉔「地獄蘇生の春日靈験譚と解脱房貞慶」、高橋悠介、奈良国立博物館図録『国宝 春日大社のすべて』、182 - 182頁、2018年4月14日、査読無
- ㉕「蒙古的衝撃—花園天皇與十四世紀的日本繪畫」、高岸輝、『國立臺灣大學美術史研究集刊』44期、83-98頁、2018年4月1日、査読有
- ㉖“Futanari, Between and Beyond: From Male Shamans to Hermaphrodites in The Illustrated Scroll of Illnesses”、山本聡美、Journal of Asian Humanities at Kyushu University (JAH-Q)、3号、77-85頁、2018年3月、査読有
- ㉗「かぐや姫と光源氏の学際・国際化と「物のけ」の絵」、高橋亨、『糸菊』2018、36-39頁、2018年2月、査読無
- ㉘「共立女子大学図書館所蔵絵巻の基礎的研究「竹取物語絵巻」「利仁草紙」「異疾之巻物(病草紙摸本)」「鳥羽絵巻物(鳥獸戯画摸本)」」、山本聡美、『共立女子大学総合文化研究所紀要』、24号、140-186頁、2018年2月1日、査読有
- ㉙「やまと絵屏風の変容—室町から桃山へ」、高岸輝、『聚美』26号、48-65頁、2018年1月24日、査読無
- ㉚「『奈良絵本集一』解題」、石川透、恋田知子、齋藤真麻理、『新天理図書館善本叢書』23号、1-20頁、2018年12月24日、査読無
- ㉛「講演 御伽草子の世界—奈良絵本・絵巻を中心に—」、石川透、『ビブリア』第147号、天理図書館、192-202頁、2017年5月25日、査読無
- ㉜「徳融寺所蔵『融通大念仏縁起』『融通大念仏龜鐘縁起』一解題と影印・翻刻」、阿部美香、『学苑』925号、151-226頁、2017年11月1日、査読有
- ㉝「画像としての軍記物語」、石川透、『悠久』第149号、95-102頁、2017年5月20日、査読無
- ㉞「作家と筆耕—浅井了意を中心に—」、石川透、『藝文研究』第113号、42-52頁、2017年12月1日、査読有
- ㉟「江戸後期『酒餅論』作品とその社会」、畑有紀、『軍記と語り物』、第53号、24-34頁、2017年3月31日、査読有
- ㊱「キリシタン版国字本の造本について—平仮名古屋活字本との比較を通して」、佐々木孝浩、『斯道文庫論集』51号、33-61頁、2017年2月28日、査読有
- ㊲「救済の舞台」としての六道絵」、加須屋誠、奈良国立博物館編『源信—地獄極楽の扉—』展覧会図録、246-250頁、2017年、査読無
- ㊳「病草紙」における説話の領分—男巫としての二形—」、山本聡美、小峯和明監修・出口久徳編『日本文学の展望を拓く2 絵画・イメージの回廊』、笠間書院、81-95頁、2017年11月10日、査読無

- ③⑨ 「個人蔵・荒神曼荼羅について」、高橋悠介、『金沢文庫研究』339号、37-46頁、2017年11月、査読無
- ④⑩ 「美しい次代の源氏学にむけて」、高橋亨、『日本文学研究ジャーナル』3号、2-5頁、古典ライブラリー、2017年9月、査読有
- ④⑪ 「律院称名寺と聖徳太子伝一釋了敏の写本を中心に」、高橋悠介、『説話文学研究』52号、13-23頁、2017年9月30日、査読有
- ④⑫ 「能の構想力と『源氏物語』」、高橋亨、『能と狂言』15号、17-25頁、2017年7月25日、査読有
- ④⑬ 「子午線 奈良絵本・絵巻研究の副産物一浅井了意と居初つな」、石川透、『日本文学』66巻5号、78-79頁、2017年5月10日、査読有
- ④⑭ 「日本文学研究の国際化と一次文献資料」、高橋亨、『物語研究』17号、1-4頁、2017年3月31日、査読有

(2) 著作物(計 24件)

- ① 『地獄めぐり』、加須屋誠、講談社、2019年、総230頁
- ② 『描かれた能楽一芸能と絵画が織りなす文化史』、小林健二、吉川弘文館、2019年、総336頁
- ③ 『幸若舞曲と絵画一武将の愛した英雄たち』海の見える杜美術館特別展示図録、小林健二監修、2019年、総136頁
- ④ 『室町時代の女装少年×姫 『ちごいま』物語絵巻の世界』、阿部泰郎監修、江口啓子、鹿谷祐子、末松美咲、服部友香(編)、笠間書院、2019年、総263頁
- ⑤ 『記憶の図像学』、加須屋誠、吉川弘文館、2019年、総257頁
- ⑥ 『和歌を読み解く和歌を伝える：堂上の古典学と古今伝授』、海野圭介、勉誠出版、2019年、総672頁
- ⑦ 『奈良絵本を見る 展示解説』、石川透編、奈良絵本・絵巻国際会議、2019年、総32頁
- ⑧ 『闇の日本美術史』、山本聡美、筑摩書房、2018年、総213頁
- ⑨ 『中世日本の世界像』、阿部泰郎、名古屋大学出版会、2018年、総604頁
- ⑩ 『祈りと救いの中世』小林健二・落合博志・齋藤真麻理・海野圭介・恋田知子編(分担執筆：阿部泰郎、阿部美香、高橋悠介、佐々木孝浩ほか4名)、国文学研究資料館、2018年、総64頁
- ⑪ 『南岳衡山と聖徳太子信仰』、阿部泰郎、吉原浩人編、勉誠出版、2018年、総352頁
- ⑫ 『室町物語影印叢刊71・角田川物語』、石川透編、三弥井書店、2017年、総103頁
- ⑬ 『室町物語影印叢刊70・御茶物語』、石川透編、三弥井書店、2017年、総27頁
- ⑭ 『室町物語影印叢刊69・鶴亀の草子』、石川透編、三弥井書店、2017年、総28頁
- ⑮ 『室町物語影印叢刊68・浄瑠璃物語』、石川透編、三弥井書店、2017年、総101頁
- ⑯ 『室町物語影印叢刊67・八幡御縁起』、石川透編、三弥井書店、2017年、総40頁
- ⑰ 『異界へいざなう女：絵巻・奈良絵本をひもとく』、恋田知子、平凡社、2017年、総112頁
- ⑱ 『平成二十九年度センチュリー文化財団寄託品展覧会「空海と密教の典籍」』、高橋悠介編、慶應義塾大学附属研究所道文庫・慶應義塾大学アート・センター、2017年、総24頁
- ⑲ 『絵巻で読む源氏物語：毛利博物館所蔵「源氏物語絵巻」』龍澤彩、三弥井書店、2017年、総127頁
- ⑳ 『病草紙』、加須屋誠、山本聡美編、高岸輝ほか3名、中央公論美術出版、2017年、総259頁
- ㉑ 『絵巻マニア列伝展図録』、高岸輝、山本聡美ほか4名、サントリ美術館、2017年、総239頁
- ㉒ 『天皇の美術史』第3巻 乱世の王権と美術戦略、高岸輝・黒田智、吉川弘文館、2017年、総230頁
- ㉓ 『天皇の美術史』第2巻 治天のまなざし、王朝美の再構築、伊藤大輔、加須屋誠、吉川弘文館、2017年、総224頁
- ㉔ 『道成寺と日高川一道成寺縁起と流域の宗教文化一』、阿部泰郎・高岸輝ほか16名、和歌山県立博物館、2017年、総252頁

[本事業成果としての報告書] (計 1件)

- ① 『フリーア美術館所蔵絵本・絵巻論稿』二〇一九年度版、高岸輝、山本聡美、阿部美香、龍澤彩、江口啓子、近本謙介、2019年、総47頁。

[海外共同研究者による本事業成果としての代表的著作物] (計 1件)

- ① 『The Tale of Genji: A Japanese Classic Illuminated』、メリッサ・マコーミック、ほか3名、メトロポリタン美術館、2019年、総368頁

(3) 講演 (計95件) うち招待講演 38件、うち国際学会 59件

- ① 「本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の補筆徳彩に関する問題提起」、原口志津子、本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の総合的研究シンポジウム、2019年9月14日
- ② 「『御曹司島渡』と『ガリヴァー旅行記』との関係について」、石川透、奈良絵本・絵巻国際会議、2019年8月24日
- ③ 「かわいい絵本と絵巻」、石川透、絵入り本国際研究集会、2019年7月20日

- ④「『時雨』の挿絵にみられる受容と変換」、デルフィーヌ・ミュラール、絵入り本国際研究集会、2019年7月20日
- ⑤「室町時代の女性筆者「一位局」の伝承」、江口啓子、絵入り本国際研究集会、2019年7月20日
- ⑥「近世前期絵草子屋における物語の制作―「小泉」の奈良絵本を中心に―」、末松美咲、絵入り本国際研究集会、2019年7月20日
- ⑦「美術史における絵伝と絵解き」、村松加奈子、井波太子伝絵解きフォーラム、2019年6月23日、155名（うち研究者5名、一般150名）
- ⑧「伊豆マンダラ絵解き―末代上人伊豆マンダラの旅」、阿部美香、富士山と末代上人熱海の会総会、2019年6月23日、40名、（うち一般40名）
- ⑨「男装と変成男子―『新蔵人』絵巻に見る女人成仏の思想」、江口啓子、中世文学会春季大会、2019年5月28日、（うち研究者200名）
- ⑩「17世紀における中世絵巻の再生」、高岸輝、シンポジウム『『舞の本』と華麗なる江戸絵巻・絵本の世界』（海の見える杜美術館）、2019年4月13日、50名（うち研究者30名、一般20名）
- ⑪「Introduction to the "Phantom Genji handscrolls"」、メリッサ・マコーミック、コロンビア大学バーク日本美術研究センターシンポジウム「Illuminating The Tale of Genji: New Art Historical Perspectives」、2019年4月13日
- ⑫「The Various Phases of Genji Pictures in the Tale of Genji Scrolls of the Seventeenth Century: The Medieval to Early Modern Transitional Period as a "Compendium of Genji Pictures"（17世紀の源氏物語絵巻に見る源氏絵の諸相―中近世移行期の「源氏絵集成」として）」、龍澤彩、コロンビア大学バーク日本美術研究センターシンポジウム「Illuminating The Tale of Genji: New Art Historical Perspectives」、2019年4月13日
- ⑬「Genji Pictures and Kujō Yukiie's Genji Studies」、高橋亨、コロンビア大学バーク日本美術研究センターシンポジウム「Illuminating The Tale of Genji: New Art Historical Perspectives」、2019年4月13日
- ⑭「Taming the Flood of Text with the Help of Old Commentaries: A Hypothesis about the process of making the *Moriyasu Genji monogatari emaki*」、エステル・ボエール、コロンビア大学バーク日本美術研究センターシンポジウム「Illuminating The Tale of Genji: New Art Historical Perspectives」、2019年4月13日
- ⑮「『飲食養生鑑』・『房事養生鑑』の教訓性」、畑有紀、科研費基盤(B)「語り物を題材とした絵巻・絵本の国際的調査研究」・頭脳循環を加速する戦略的国際ネットワーク推進プログラムによる合同研究会、2019年4月14日、25名（うち研究者25名）
- ⑯「『舞の本』を粉本とした絵本と絵巻」、小林健二、シンポジウム『『舞の本』と華麗なる江戸絵巻・絵本の世界』、2019年4月13日、50名（うち研究者30名、一般20名）
- ⑰「詞書に見る17世紀絵巻群」、石川透、シンポジウム『『舞の本』と華麗なる江戸絵巻・絵本の世界』、2019年4月13日、50名（うち研究者30名、一般20名）
- ⑱「フリーア美術館所蔵「槻峯寺建立修行縁起絵巻」とともに歩んだ20年の旅（1998～2019）」（基調講演）、高岸輝、JSPSグローバル展開プログラム「絵ものがたりメディア文化遺産の普遍的価値の国際共同研究による探求と発信」による国際ワークショップ（米国・フリーア美術館）、2019年3月18日、15名（うち研究者15名）
- ⑲「融通念仏縁起絵巻の成立と変奏―フリーア美術館蔵本『融通念仏縁起絵巻』を中心に」、阿部美香、フリーア美術館ワークショップ「フリーア美術館所蔵作品を通した日本絵ものがたり文化遺産の発見―絵巻を中心にその世界を探求する」2019年3月18日、15名（うち研究者15名）
- ⑳「Ladies-in-Waiting Watching, Speaking, Listening: Depiction of Ladies-in-Waiting in 15th and 16th」、江口啓子、AAS 2019 Annual Conference (Denver)、2019年3月22日、45名（うち研究者45名）
- ㉑「立ち現れる中世の教会宗教空間―鶴岡八幡宮・一遍・面掛行列」、阿部泰郎、コロンビア大学国際シンポジウム Borders, Performance, and Deities（境界、芸能、神仏）、2019年3月16日、50名（うち研究者40名、一般10名）
- ㉒「女院は越境する―境界の宗教空間を生み出す宣陽門院」、阿部美香、コロンビア大学国際シンポジウム Borders, Performance, and Deities（境界、芸能、神仏）、2019年3月16日、50名（うち研究者50名）
- ㉓「蓮華王院宝蔵「六道絵」の新解釈―阿修羅道としての「辟邪絵」」、山本聡美、コロンビア大学国際シンポジウム Borders, Performance, and Deities（境界、芸能、神仏）、2019年3月16日、50名（うち研究者50名）
- ㉔「中世熱田宮の世界像と宗教テキスト」、阿部泰郎、熱田神宮文化講座公開講演、2018年3月9日、180名（うち一般180名）
- ㉕「酒と菓子の優劣争い「酒餅論」と江戸の酒―擬人化される酒をめぐる―」、畑有紀、日本酒学研究会設立総会、2019年3月8日、45名（うち研究者30名、一般15名）
- ㉖「絵巻入門―物語を伝える色と形」、山本聡美、北京日本学術研究センター絵巻セミナー、2019年2月24日、100名（うち研究者100名）
- ㉗「フランス国立極東学院でのくずし字解説セミナーの実践」、畑有紀、「第6回日韓学術交流会―言語文化を巡って―」、2019年2月16日、40名（うち研究者40名）

- ⑳ 「奈良絵本は面白い」、石川透、奈良絵本は面白い、2019年1月20日、200名（うち研究者50名、一般150名）
- ㉑ 「絵解きで顕わす伊豆・富士山の世界」、阿部美香、大高康正、神奈川県立金沢文庫特別展「顕わされた神々」ワークショップ、2019年1月13日、60名（うち研究者5名、一般55名）
- ㉒ 「中世東国に顕わされた神々 - 神々はいかに顕わされたか」、阿部泰郎、神奈川県立金沢文庫「顕わされた神々(特別展)」講演会、2018年1月12日、参加者120名（うち研究者25名、一般95名）
- ㉓ 「病苦図像の源流—静嘉堂文庫蔵「妙法蓮華経変相図」について」、山本聡美、東京文化財研究所2018年度第7回研究会、2018年12月27日、50名（うち研究者50名）
- ㉔ 「中世日本の小さな神々 - 若宮・童子神・護法たち」、阿部泰郎、フランス・エクスプロバンス、エクス・マルセイユ大学国際研究集会「中世日本の大きな神々と小さな神々」2018年11月23日、参加者50名（うち研究者10名、一般40名）
- ㉕ 「閻魔さまからみる地獄と極楽」、阿部美香、八千代市立郷土資料館「八千代の十王図から見た地獄」展講演会、2018年11月4日、100名（うち一般100名）
- ㉖ 「儀礼が生みだす中世東国の宗教世界」、阿部泰郎、神奈川県立歴史博物館「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼(特別展)」講演、2018年11月1日、100名（うち研究者10名、一般90名）
- ㉗ 「祈りの姿と和歌一院政期を中心に」、海野圭介、国文学研究資料館特別展示「祈りと救いの中世」セミナー、2018年10月18日、30名（うち一般30名）
- ㉘ 「九相図—朽ちてゆく死体の美術」、山本聡美、第87回日本法医学会学術関東地方集会、2018年10月6日、150名（うち研究者150名）
- ㉙ 「聖徳太子絵伝」絵解き、末松美咲、フランス・ストラスブール大学ワークショップ Une soirée avec les légendes et les chants rituels du bouddhisme japonais、2018年10月2日、200名（うち研究者20名、一般180名）
- ㉚ 「果蔬呈槃図」絵解き、伊藤信博、パリ・チェルヌスキ美術館 Conférences exceptionnelles autour du Japon、2018年9月29日、80名（うち一般80名）
- ㉛ 「日本近世—近代における聖徳太子の変貌」、阿部泰郎、ストラスブール大学国際研究集会「人文学と自己意識—18・19世紀の人文学における自己認識と文化の形成」、2018年9月14日、25名（うち研究者25名）
- ㉜ “Kuzushi-ji seminar” by Japanese young researchers: For a building a network of Japan humanities research in Europe, ”、畑有紀、YASUI Mihiro, The 29th European Association of Japanese Resource Specialists Conference、2018年9月12日、60名（うち研究者45名、一般15名）
- ㉝ 「見る女房、語る女房—『児今参り』絵巻の描かれた女房たち」、江口啓子、「名古屋大学頭脳循環プログラム 絵巻・絵本研究を中心として」、2018年9月23日、20名（うち研究者20名）
- ㉞ “A personificação dos alimentos nos Capa Amarela (kibyōshi),” 畑有紀、XII Congresso Internacional de Estudos Japoneses no Brasil / XXV Encontro Nacional de Professores Universitários de Língua, Literatura e Cultura Japonesa (パネル”Personificações nos e-monogatari de Muromachi e Edo”), 2018年8月28日、60名（うち研究者50名、一般10名）
- ㉟ 「居初つなの歌仙絵について」、石川透、奈良絵本・絵巻国際会議、2018年8月25日、50名（うち研究者40名、一般10名）
- ㊱ 「宗教テキスト遺産としての寺院聖教」、阿部泰郎、ドイツ・ハンブルグ大学国際写本研究所国際ワークショップ“日本宗教写本学”、2018年8月21日、15名（うち研究者15名）
- ㊲ 「聖なる言葉を和歌の上—供養経とその歴史」、海野圭介、ドイツ・ハンブルグ大学国際写本研究所国際ワークショップ“日本宗教写本学”、2018年8月22日、15名（うち研究者15名）
- ㊳ 「聖徳太子伝絵解き—黒駒による富士飛翔」、末松美咲、三禅定絵解きフォーラム—立山・白山・富士山と参詣曼荼羅の世界、2018年7月29日、150名（うち研究者50名、一般100名）
- ㊴ 「東アジア古典学の次世代拠点形成 著者と語る」、加須屋誠、科研プログラム「東アジア古典学の次世代拠点形成—国際連携による研究と教育の加速」、2018年7月27日
- ㊵ 「国立図書館伊勢物語画帖について」デルフィース・ミュラー、 「フランス人研究者のまなざし」(名古屋大学人類文化遺産テキスト学研究センター)、2018年7月18日、20名（うち研究者15名、一般5名）
- ㊶ 「フランス国立図書館本『八幡縁起』の図像とその源泉—12世紀の絵巻との関連について」、エステル・ボエール、国際ワークショップ「八幡縁起、その流伝と変容—絵巻・神話・地域社会」(パリ)、2018年7月13日、15名（うち研究者15名）
- ㊷ 「八幡縁起絵巻の歴史における転換期」、メラニー・トレーデ、国際ワークショップ「八幡縁起、その流伝と変容—絵巻・神話・地域社会」(パリ)、2018年7月9日、15名（うち研究者15名）
- ㊸ 「八幡縁起絵巻の諸伝本」石川透、国際ワークショップ「八幡縁起、その流伝と変容—絵巻・神話・地域社会」(パリ)、2018年7月9日、15名（うち研究者15名）
- ㊹ 「判官物語の展開」、小林健二、説話文学学会大会シンポジウム、2018年6月26日、100名（うち研究者100名）
- ㊺ 「戦国時代における霊場歴史と縁起・勧進・絵画」、高岸輝、第71回美術史学会全国大会 シンポジウム「聖地巡礼」、2018年5月19日、300名（うち研究者300名）
- ㊻ 「江戸の麻疹流行と食べもの」、畑有紀、椋山女学園大学国際コミュニケーション学部連続文化セミナー、2018年

5月18日、50名（うち研究者10名、一般40名）

⑤⑤ 「日本における灌頂の文化史」、阿部泰郎、アメリカ・サンタバーバラ、カリフォルニア州立大学サンタバーバラ校国際研究集会“The World of Abhiseka”、2018年5月13日、25名（うち研究者25名）

⑤⑥ “The Resurgence of a Picture Scroll from the Rengeō-in Treasury: Prince Sadafusa’s Copy of and Insertion of Poems within The Illustrated Scroll of the Battle of Breaking Wind”、山本聡美、Movement and Materiality in Japanese Art, The Mary Griggs Burke Center for Japanese Art, Columbia University、2018年3月10日、60名（うち研究者60名）

⑤⑦ 「中世密教聖教の表紙をめぐる」、高橋悠介、ハイデルベルグ大学・名古屋大学 国際ワークショップ「聖なるテキストのマテリアリティ」、2018年3月2日、20名（うち研究者20名）

⑤⑧ 「奈良絵本・絵巻のかたち」、石川透、ハイデルベルグ大学・名古屋大学 国際ワークショップ「聖なるテキストのマテリアリティ」、2018年3月2日、20名（うち研究者20名）

⑤⑨ 「『後三年合戦絵巻』の変貌—古代から近代まで—」、高岸輝、東京大学駒場博物館所蔵第一高等学校絵画資料修復記念 知られざる明治期日本画と「一高」の倫理・歴史教育」展記念シンポジウム、2017年12月2日、70名（うち一般70名）

⑥⑩ 「『道成寺縁起』絵巻が体現する伝承宇宙—絵ものがたりによる女人の龍蛇への変身」、阿部泰郎、和歌山県立博物館「道成寺と日高川」講演会、2017年11月3日、70名（うち研究者10名、一般60名）

⑥⑪ 「日本無双の縁起、「道成寺縁起」の謎をさぐる—絵師、成立年代から、最後の将軍・足利義昭の鑑賞まで—」、高岸輝、和歌山県立博物館特別展「道成寺と日高川」講演会、2017年10月22日、70名（うち研究者10名、一般60名）

⑥⑫ 「宝蔵絵の再生—伏見宮貞成親王による「放屁合戦絵巻」転写と画中詞染筆」、山本聡美、説話文学会平成29年度9月例会（シンポジウム「画中詞研究への視座—絵と言葉のナラトロジー」）、2017年10月7日、50名（うち研究者50名）

⑥⑬ 「画中詞の創作—『住吉物語』絵巻と『稚児今参り』絵巻」、江口啓子、説話文学会平成29年度9月例会、2017年10月7日、50名（うち研究者50名）

⑥⑭ 「地獄と極楽の宗教空間を探る」、阿部美香、第46回奈良国立博物館夏季講座「地獄・極楽と浄土信仰の美術」、2017年8月25日、630名（うち研究者30名、一般600名）

⑥⑮ 「六道を巡る」、加須屋誠、第46回奈良国立博物館夏季講座「地獄・極楽と浄土信仰の美術」、2017年8月25日、630名（うち研究者30名、一般600名）

⑥⑯ 「CBL所蔵の奈良絵本・絵巻について」、石川透、チェスタービーティライブラリー国際シンポジウム「日本の絵ものがたりの世界」、2017年8月3日、30名（うち研究者20、一般10名）

⑥⑰ 「『竹取物語絵巻』の詞と絵」、山本聡美、チェスタービーティライブラリー国際シンポジウム「日本の絵ものがたりの世界」、2017年8月3日、30名（うち研究者20、一般10名）

⑥⑱ 「CBL所蔵の『文正草子』の絵巻と絵本について」、デルフィース・ミュラー、チェスタービーティライブラリー国際シンポジウム「日本の絵ものがたりの世界」、2017年8月3日、30名（うち研究者20、一般10名）

⑥⑲ 「聖徳太子の絵ものがたりの系譜—CBL本『聖徳太子伝』絵本の位置付け—」、阿部泰郎、チェスタービーティライブラリー国際シンポジウム「日本の絵ものがたりの世界」、2017年8月4日、30名（うち研究者20、一般10名）

⑦⑰ 「CBL本『義経地獄破り』における物語化の方法」、末松美咲、チェスタービーティライブラリー国際シンポジウム「日本の絵ものがたりの世界」、2017年8月4日、30名（うち研究者20、一般10名）

⑦⑱ 「異本是害坊絵巻と百鬼夜行絵巻の世界」、伊藤信博、チェスタービーティライブラリー国際シンポジウム「日本の絵ものがたりの世界」、2017年8月4日、30名（うち研究者20、一般10名）

⑦⑲ 「源氏絵における怪異表現」、高橋亨、チェスタービーティライブラリー国際シンポジウム「日本の絵ものがたりの世界」、2017年8月4日、30名（うち研究者20、一般10名）

⑦⑳ 「大織冠の絵巻・絵本化をめぐる」、恋田知子、チェスタービーティライブラリー国際シンポジウム「日本の絵ものがたりの世界」、2017年8月4日、30名（うち研究者20、一般10名）

⑦㉑ 「『大江山絵巻』とその周辺」、齋藤真麻理、チェスタービーティライブラリー国際シンポジウム「日本の絵ものがたりの世界」、2017年8月4日、30名（うち研究者20、一般10名）

⑦㉒ 「二つの『舞の本絵巻』」、小林健二、チェスタービーティライブラリー国際シンポジウム「日本の絵ものがたりの世界」、2017年8月4日、30名（うち研究者20、一般10名）

⑦㉓ 「砺波における聖徳太子伝の絵解き文化」、阿部泰郎、金沢絵解きフォーラム、2017年7月21日、80名（うち研究者10名、一般70名）

⑦㉔ 「日本美術史における国際化とその更新」、高岸輝、東方学会創立70周年記念大会シンポジウム「東方からの東方学—その多様性と可能性—」、2017年6月17日、60名（うち研究者60名）

⑦㉕ 「黄表紙の中の擬人化された酒」、畑有紀、日本家政学会食文化研究部会平成28年度3月例会、2017年3月22日、50名（うち研究者40名、一般10名）

⑦㉖ “The End of the “Sisters’ Power” : From Male Shamans to Hermaphrodites in The Illustrated Scroll of Illnesses”、山本聡美、2017 Annual Conference of AAS (The Association for Asian Studies)、2017年3月16日、

30名（うち研究者30名）

- ⑧⑩ 「絵物語のかたちとテキストの変容—『稚児今参り物語』伝本についての考察—」、末松美咲、ハーバード大学主催・名古屋大学 CHT 共催 国際ワークショップ 「The Time-Capsule Prince: The Sedgwick “Shoutoku Taishi At Age Two and the Horizons of Medieval Japanese Religious Art」, 2017年3月25日、20名（うち研究者20名）
- ⑧⑪ 『ちごいま参り』における稚児の造型—「女装」という視点から」、服部友香、ハーバード大学美術館蔵聖徳太子二歳像共同研究ワークショップ、「中世美術と絵巻の宗教空間」, 2017年3月25日、20名（うち研究者20名）
- ⑧⑫ 「二河白道」の絵巻としての『因果業鏡図』 The Inga gokyo zu as an Illustrated Scroll of the Two Rivers and the White Pash」、阿部美香、ハーバード大学主催・名古屋大学 CHT 共催 国際ワークショップ 「The Time-Capsule Prince: The Sedgwick “Shoutoku Taishi At Age Two and the Horizons of Medieval Japanese Religious Art」, 2017年3月24日、20名（うち研究者20名）
- ⑧⑬ 「女性回避の経説絵巻—スペンサー・コレクション蔵『因果業鏡図』絵巻を中心に」、恋田知子、ハーバード大学主催・名古屋大学 CHT 共催 国際ワークショップ 「The Time-Capsule Prince: The Sedgwick “Shoutoku Taishi At Age Two and the Horizons of Medieval Japanese Religious Art」, 2017年3月25日、20名（うち研究者20名）
- ⑧⑭ 「ハーバード美術館蔵聖徳太子二歳像 胎内納入宗教テキストの中世宗教空間」、阿部泰郎、ハーバード大学主催・名古屋大学 CHT 共催 国際ワークショップ 「The Time-Capsule Prince: The Sedgwick “Shoutoku Taishi At Age Two and the Horizons of Medieval Japanese Religious Art」, 2017年3月25日、20名（うち研究者20名）
- ⑧⑮ 「エレリー・セジウィックと祈りを捧げる少年—セジウィック聖徳太子二歳像とその西漸—」、レイチェル・サンダース、ハーバード大学主催・名古屋大学 CHT 共催 国際ワークショップ 「The Time-Capsule Prince: The Sedgwick “Shoutoku Taishi At Age Two and the Horizons of Medieval Japanese Religious Art」, 2017年3月25日、20名（うち研究者20名）
- ⑧⑯ 「平仮名古活字版の仕立てについて」、佐々木孝浩、写本・版本国際研究集会（ハイデルベルク大学）、2017年3月8日
- ⑧⑰ “Reading Engaku, An Illustrated Tale of a Monkey Couple That Is Reborn in the Pure Land”、阿部美香、名古屋大学 CHT・コロンビア大学東アジア言語文化学科・ドナルドキーン日本文化センター共催中世日本文化講座シリーズ、2017年3月28日、60名（うち研究者55名、一般5名）
- ⑧⑱ “Gods and Text/Image in Medieval Japanese Paintings: Kamiyo monogatari (Tale of the Age of the Gods) and Hikohohodemi no mikoto”、阿部泰郎、名古屋大学 CHT・コロンビア大学東アジア言語文化学科・ドナルドキーン日本文化センター共催中世日本文化講座シリーズ、2017年3月28日、60名（うち研究者55名、一般5名）
- ⑧⑲ 「融通念仏縁 起絵巻における写本と版本The manuscript and woodblock-printed bookus of the Yuuzuu nenbutsu engi emaki (Handscroll about the origin of the prayer to buddha Amitabha)」、阿部美香、ハイデルベルク大学主催・慶応義塾大学・名古屋大学CHT共催 国際研究集会「写本と版本NEW INSIGHTS INTO MANUSCRIPTS AND PRINTED BOOKS IN EARLY-MODERN JAPAN」、2017年3月9日、15名（うち研究者15名）
- ⑧⑳ 「江戸初期の『大織冠』絵本の特異性とその驚くべき絵画図像An unusual illuminated Taishokan Manuscript of the early seventeenth century and its unexpected pictorial iconography」、メラニー・トレード、ハイデルベルク大学主催・慶応義塾大学・名古屋大学CHT共催 国際研究集会「写本と版本NEW INSIGHTS INTO MANUSCRIPTS AND PRINTED BOOKS IN EARLY-MODERN JAPAN」、2017年3月9日、15名（うち研究者15名）
- ⑧㉑ 「浅井了意の写本と版本The Manuscripts and Woodblock-printed Books of Asai Ryô」、石川透、ハイデルベルク大学主催・慶応義塾大学・名古屋大学CHT共催 国際研究集会「写本と版本NEW INSIGHTS INTO MANUSCRIPTS AND PRINTED BOOKS IN EARLY-MODERN JAPAN」、2017年3月9日、15名（うち研究者15名）
- ⑧㉒ 「江戸初期における仮名法語の開版と物語草子Relationships between the Publication of Vernacular Buddhist Tales and the Larger World of Vernacular Tales in the Early Edo Period」、恋田知子、ハイデルベルク大学主催・慶応義塾大学・名古屋大学CHT共催 国際研究集会「写本と版本NEW INSIGHTS INTO MANUSCRIPTS AND PRINTED BOOKS IN EARLY-MODERN JAPAN」、2017年3月9日、15名（うち研究者15名）
- ⑧㉓ 「平仮名古活字版の仕立てについて」、佐々木孝浩、ハイデルベルク大学主催・慶応義塾大学・名古屋大学CHT共催 国際研究集会「写本と版本NEW INSIGHTS INTO MANUSCRIPTS AND PRINTED BOOKS IN EARLY-MODERN JAPAN」、2017年3月9日、15名（うち研究者15名）
- ⑧㉔ 「日本装飾経の世界」、阿部泰郎、ハイデルベルク大学主催・慶応義塾大学・名古屋大学CHT共催 国際研究集会「写本と版本NEW INSIGHTS INTO MANUSCRIPTS AND PRINTED BOOKS IN EARLY-MODERN JAPAN」、2017年3月9日、15名（うち研究者15名）
- ⑧㉕ 「日本美術史の闇と光—九相図をよむ」、山本聡美、宮崎県延岡市教育委員会・旭化成ひむか文化財団・夕刊デイリー新聞社主催「21世紀をひらく—歴史と文化の再発見シリーズ」、2017年2月12日、150名（うち一般150名）

（4）本事業で主催したシンポジウム等（計 10件）うち国際研究集会 計 3件

①絵ものがたり絵解きがたり—平野に伝わる聖徳太子絵伝—、大阪杭全神社、2019年7月27日、120名（うち研究者30名、一般90名）

- ②井波太子伝絵解きフォーラム、井波別院龍泉寺太子堂、2019年6月23日、150名（うち研究者5名、一般145名）
- ③聖徳太子絵解きワークショップ、ハーバード大学、2019年5月29日、20名（うち研究者5名、一般15名）
- ④公開シンポジウム『舞の本』と華麗なる江戸絵巻・絵本の世界」、海の見える杜美術館、2019年4月13日、50名（うち研究者30名、一般20名）
- ⑤国際研究集会「フリーア美術館所蔵作品を通じた日本絵ものがたり文化遺産の発見—絵巻を中心にその世界を探求する—」、米国フリーア美術館、2019年3月20日、15名（うち研究者15名）
- ⑥城端絵解きフォーラム—地域文化遺産としての絵解き、じょうはな座（富山南砺市）、2018年11月9日、50名（うち研究者10名、一般40名）
- ⑦三禅定絵解きフォーラム—立山・白山・富士山と参詣曼荼羅の世界、名古屋大学東山キャンパス野依記念学术交流館カンファレンスホール、2018年7月29日、150名（うち研究者50名、一般100名）
- ⑧くずし字セミナー、日仏学会館（仏国ストラスブール）、2018年3月26日、27日、40名（うち大学生・院生40名）
- ⑨国際シンポジウム「日本の絵ものがたりの世界」、アイルランド・チェスタービーティライブラリー（CBL）、2017年8月3、4日、30名（うち研究者20名、一般10名）
- ⑩金沢絵解きフォーラム—北陸の絵解き文化を探る、金沢大学サテライト・プラザ、2017年7月21日、80名（うち研究者10名、一般70名）

○ホームページ

<https://www.lit.nagoya-u.ac.jp/cht/>

<https://www.mis.ne.jp/etokiza/index.php/nowlooking/e-mono-toki-kumata/>

<https://www.mis.ne.jp/etokiza/index.php/nowlooking/e-mono-toki-kumata/emonogatari-pvmov/>